

(研究部門)

思考力を深める国語科の指導のあり方 ～主体的・対話的な課題解決型学習をめざして～

大阪市立大成小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校では、平成27年度から、国語科の学習を核として、「読む」、「書く」、「話す・聞く」といった多様な言語活動を展開していく中で、目的に応じて、自分の思いや考えを、豊かに表現する力を育成することをねらい実践研究を進めてきた。

昨年度までの成果としては、「音読」の指導に継続して取り組んだことで、読書に興味・関心をもつとともに、読んだことをもとに思ったことや考えたことを、互いに伝え合う力を児童に育成することができた。また、「視写」を中心とした「書く」活動を多く取り入れたことで、自分の思いや考えを明確にしながら、目的意識、相手意識をもって表現することができるようになった。さらに、学習のいろいろな場で、ペアトークや少人数グループでの「話し合い」活動の場を多く設定し、主体的に友だちと思いや考えを交流することで、児童の伝え合う意欲も高まり、活発な表現活動もできるようになってきた。

その結果、各学年の児童の読む力、書く力、話し合う力が確実に向上した。今年度は、言語能力の向上をめざし、言語活動をさらに活性化するための「思考力」を育成するとともに、主体的に「課題解決型学習」を展開できるように、上記の研究主題を設定した。

2. 研究の趣旨

言語活動を活性化するために、まず国語の学習で駆使・活用される「思考力」について考えていく必要がある。国語科の学習の中で、どのような思考力が、どのように駆使されながら育成されていくのかを明確にしていく。また、児童が、その「思考力を主体的に駆使・活用」しながら学習活動が展開できるような主体的対話的な「課題解決型の学習過程」について実践を展開していくことにした。

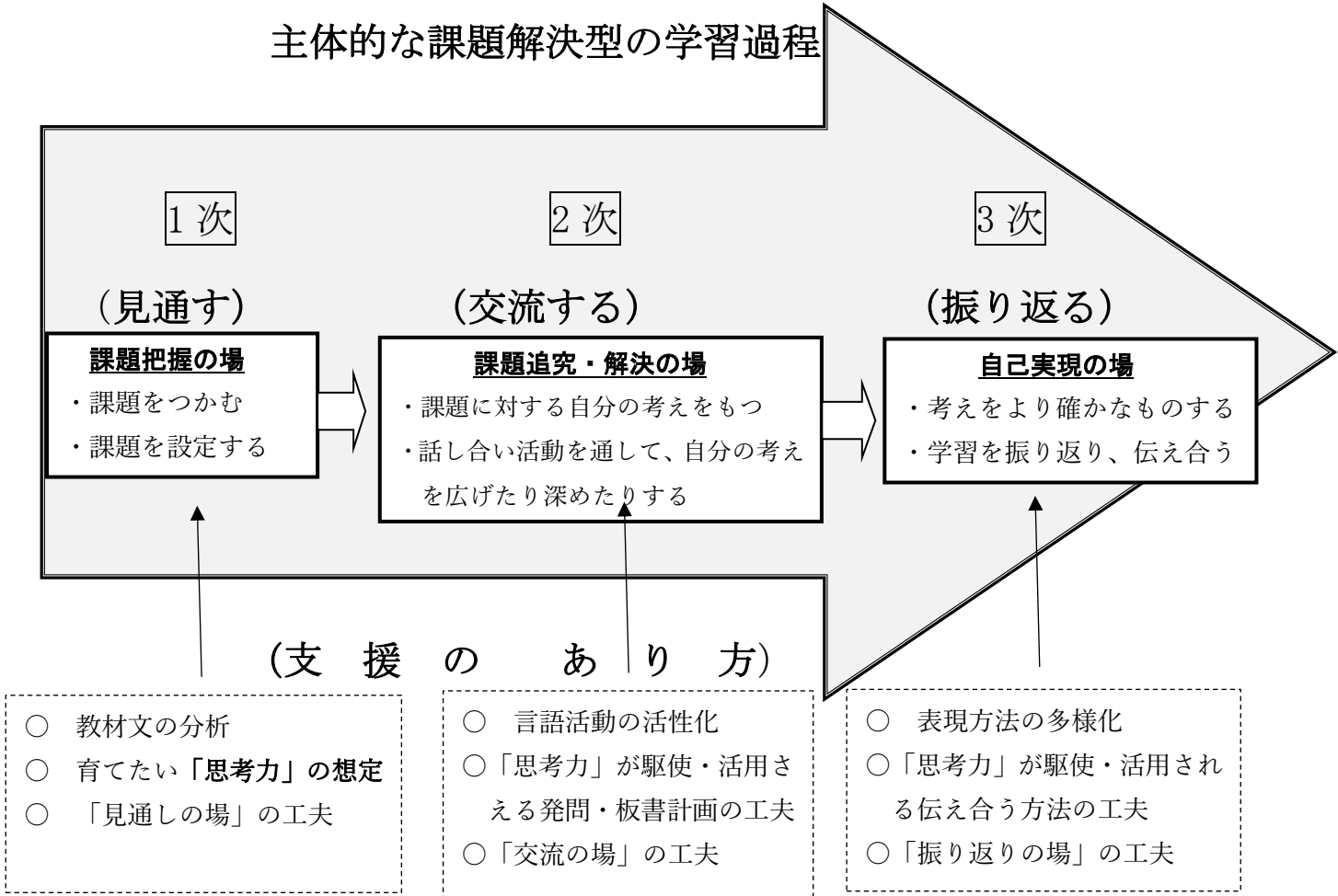
3. 研究の概要

上記の「思考力を駆使・活用」しながら学習活動が展開される「課題解決型の学習活動」を進めていくために、まず、「思考力」について考えていく。

	思 考	関 係 づ け 方
低 学 年	順序	ものごとの <u>手順</u> 、 <u>時間</u> や <u>空間</u> や <u>因果</u> や <u>関心</u> などの強さや重要さなどで <u>順序</u> <u>づける力</u>
	比較	いくつかの <u>ものごと</u> を、 <u>同じところ</u> 、 <u>似たところ</u> 、 <u>違うところ</u> などに目をつけて <u>比べ</u> 、その性質や特徴を明らかにする力
中 学 年	類別	目的に合う観点を決めて、いくつかの <u>ものごと</u> を他と <u>区別</u> したり <u>まとめた</u> <u>りする力</u> 、また、それによって <u>類</u> や <u>層</u> を明らかにする力
	理由づけ	ものごとの <u>結果</u> を引き起こした <u>原因</u> 、 <u>判断</u> を下した <u>主な理由</u> 、 <u>連鎖</u> や <u>循環</u> をなす <u>因果関係</u> などを明らかにする力
高 学 年	推理	知識や経験をもとにして、「 <u>知らない</u> 、 <u>分らない</u> 、 <u>書かれていない</u> 、 <u>これ</u> <u>からの…</u> 」などの <u>ものごと</u> について <u>筋道立てて推し測る力</u>
	定義づけ	ものごとを <u>抽象化</u> して表したり、 <u>簡略</u> に表したりする力、また、そのよう な <u>言葉</u> の意味内容を明らかにする力

そして、これらの「思考力」を児童自らがより主体的に駆使・活用することができるように、以下のような課題解決型の学習活動を展開しながら実践を推進していくことにする。（詳しくは発表動画を参照）

主体的な課題解決型の学習過程



4. 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

以下は、令和5年度「全国学力・学習調査 児童質問紙回答結果」である。

児童への質問	比較	① あてはまる (%)	② どちらかと言え ばあてはまる (%)	合 計 (%)
○国語の学習は好きですか。	大成小	34.4	37.5	71.9
	大阪府	24.4	35.0	59.4
	全 国	23.8	37.7	61.5
○国語の学習はよく分かりますか。	大成小	56.3	34.4	90.7
	大阪府	44.4	41.7	86.1
	全 国	40.4	45.3	85.1

この表から、本校の多くの児童が、「国語の勉強は好きで、授業の内容がよく分かる」と肯定的に答えていることが分かる。これは、1年生から6年生まで、継続して同じような課題解決型の国語科学習に取り組むことによって形成された児童の思いだと考えられる。

（２）今後の課題

同じく令和５年度「全国学力・学習調査 国語科の解答状況結果」では、「資料や非連続テキスト」を読み取り、その問題点や解決方法を書いたり、分かったことをまとめて書いたりするという問題に対する正答率は大阪府や全国の平均点を大きく下回っている。この要因として考えられることは、資料や非連続テキストを読み解き自分の考えを表現するといった言語活動に慣れていないということが考えられる。今後は、「資料や非連続テキスト」を読み、それに対して自分の考えを論理的に展開していくような学習の場を多く作っていきたい。